

第3学年 国語科学習指導案

指導者 小島 亜希子

1 単元名 古典を味わおう 「おくのほそ道」

2 言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「旅の絵日記づくり」を位置付ける。ここでは作者が旅の先々で詠んだ句や紀行文を「絵日記」という形に書き換えることを行う。古典という読みにくい文章を「絵日記」という、小学校の時に取り組んだ親しみのあるものに書き換えることで、古典への苦手意識の軽減を図る。生徒はまず、どの場面を絵日記に残すのか選択することから始めるため、自ずと芭蕉の旅の足跡をたどり、それぞれの場所でどのような句を詠んだのか考え、主体的に学習に取り組むことができる。さらに、生徒は絵を描くという目的をもち、文章の情景を想像しながら読むことになる。また、日記の文章を書くという目的を達成するために、芭蕉の立場になって文章を読み進めることができると考える。これは古人の思いに共感しながら文章を読むことにつながり、自分の生活と比較して考えたり「時代が変わっても、ものの見方や考え方は自分たちとつながっている」という古典の面白さを感じたりすることができると考える。この活動は、本単元でねらう「歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（ア）〕を実現するのにふさわしい言語活動であると考える。

3 単元について

（1）生徒の実態（在籍＊＊人）

〈調査人数 ＊＊人〉

○アンケート

- | | | |
|----------------------------------|--|----------|
| 1 古典を読むことについて | 得意である ＊人 | 苦手である ＊人 |
| 2 古典について思うこと | 読めたときにうれしい・ためになることが書いてある
言葉の意味が分からない・内容がつまらない・難しい | |
| 3 これまでの古典作品で印象に残っている作品について（複数回答） | 竹取物語 ＊人, 伊曾保物語 ＊人, 平家物語 ＊人 | |

本学級の生徒は文章を読むことに対して抵抗がなく、自分の好きなジャンルの本であれば読書活動に意欲的に取り組むことができる。しかし古典を読むことについては、＊割の生徒が苦手であると答えている。言葉遣いや古語の意味、動作の主体の分かりにくさや省略の多さが内容の分かりにくさにつながり、苦手意識にもつながっていると考える。印象に残っている古典作品については、内容が捉えやすかったり、既に絵本等で物語として知っていたりする「竹取物語」や「伊曾保物語」を挙げた生徒が多かった。一方で、読めるようになりたいという思いや、テストで解けるようになりたいという思いがあり、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したり、古語の語彙を増やしたりするなどの練習問題には熱心に取り組んでいる。

（2）教材観

「中学校学習指導要領解説国語編」では、第3学年の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（ア）〕に「歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと」とある。学習を通して古人の思いに共感したり、自分の生活と比較して考えたりしながら「時代が変わっても、ものの見方や考え方は自分たちとつながっている」という古典の面白さを感じ、古典に親しむ態度の育成を図りたい。

本単元で扱う「おくのほそ道」は、格調高い文章と数多くの名句から、日本の紀行文学の中で優れた作品として有名である。漢文調の言い回しや対句表現などが効果的に用いられており、音読や朗読でリズムを楽しむことができる。また冒頭部分では、芭蕉の人生観と旅への憧れが述べられ、平泉の部分では、藤原三代の栄華や義経主従の戦いの跡を眺めることによって、人間の営みのはかなさに対し、自然の悠久性を感じる芭蕉の姿が描かれている。芭蕉はこの旅を通して、人間の営みの中にある変わるものと変わらないものに考えを巡らしている。これは古典を過去の難解な文章と考えている生徒にとって、変わらない人の思いや考えがあるということを知ることができ、古典を親しむ姿勢につながると考える。また、日本文化の中に伝統として息づいている美意識や価値観に触れるることは、自分の進路や将来の生き方にについて考え始めているこの時期の3年生にとって、日本に生きる自分自身や現代の社会を見つめ直す上で大きな意味があると考える。

（3）指導観

本単元では「おくのほそ道」を読み、「歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと」を目標とする。前単元の「万葉・古今・新古今」の学習では、和歌の中で作者はどこで、何に感動しているかについて考え、作者の考え方や感じ方が現代に生きる私たちにも通ずるものがあることを確認した。ここでも作者がどこで、何に感動しているかを押さえ、それに対して自分の考えをもつことで、古い時代を生きた人々と現代を生きる自分とを比較しながら考えを深め、古典の世界に親しむことができると考える。

ここでは学習のはじめに、2年生の次年度の学習のために「おくのほそ道」を絵日記に書き換えようと投げかけ、それを解決するために文章を読むという学習の目的を明確にする。まず、第1次に作品の文学的価

値や成立、芭蕉の旅程を理解し、作品や作者に対する興味を引き出す。さらに、どの場面を絵日記にするか芭蕉の旅程を追いかながら考えさせ、学習に見通しをもたせる。次に、漢語的な表現や対句的な表現という文章の特徴やリズムを生かしながら音読し、さらに冒頭部分を暗唱させ、作品を味わっていきたい。出発までの部分で、絵日記の文章部分を隠したものを見出し、旅や人生についてどのような思いを抱いていたのかを考えさせる。そして、平泉の部分で作者はどこで何に感動していたかを読み取り、古人の思いやものの見方や考え方について理解を深めていく。ここまで学習で、絵日記にはその場所の説明や作者がどこで何を感じたかに触れるところを押さえるようにする。第3次では、各自が選んだ旅の場面を絵日記へと書き換えるようにする。そして芭蕉のものの見方や考え方について理解を深め、それに対して自分はどうに感じるか、自分と比較しながら考えをまとめさせたい。さらにグループで交流させ考えを広げさせたい。

4 単元の目標

○文章に示された内容やものの見方について関心をもち、その世界に親しもうとする。

(国語への関心・意欲・態度)

○文章に表れている情景や場面を的確に捉え、文章全体の理解を深めることができる。

(読むこと)

○歴史的背景や古典特有のリズムなどに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
文章に示された内容やものの見方について関心をもち、その世界に親しもうとしている。	文章に表れている情景や場面を的確に捉え、文章全体の理解を深めている。	歴史的背景や古典特有のリズムなどに注意して古典を読み、その世界に親しんでいる。

4 指導と評価の計画（6時間扱い）

次	時	学習活動	主な評価規準
1	1	○単元を貫く言語活動を理解し、学習に見通しをもつ。 ○作品の文学的価値や成立、芭蕉の旅程を理解する。	・単元を貫く言語活動を理解し、芭蕉の旅程や詠んだ句について理解しようとしている。 (関心・意欲・態度) ・作品の特色や歴史的背景を理解し、その世界に親しんでいる。 (言語についての知識・理解・技能)
2	1 2 ③	○表現の特徴やリズムを味わいながら音読する。 ○出発までの部分を読み、文章を理解する。 ○芭蕉がどのような人物であるかを考える。(出発までの部分から) ○平泉の前半部分を読み、文章を理解する。(本時)	・文章に示された内容やものの見方について関心をもち、その世界に親しもうとしている。 (関心・意欲・態度) ・文章に表れている作者のものの見方や考え方を理解し、自分の考えをもつことができる。 (読む能力) ・文章に表れている情景や場面を的確に捉え、文章全体の理解を深めている。 (読む能力) ・作品の特色や歴史的背景を理解し、その世界に親しんでいる。 (言語についての知識・理解・技能) ・漢語的・対句的リズムを味わいながら、古典の世界に親しんでいる。 (言語についての知識・理解・技能)
3	1 2	○旅の場面を選び、絵日記を作成する。 ○作者の生き方や考え方に対する自分の考えをまとめ、考えをグループで交流する。	・文章に示された内容やものの見方について関心をもち、その世界に親しもうとしている。 (関心・意欲・態度) ・作品の特色や歴史的背景を理解し、その世界に親しんでいる。 (言語についての知識・理解・技能)

7 本時の学習

(1) 本時の目標

文章に表れている情景や場面を的確に捉え、文章全体の理解を深めることができる。(読むこと)

(2) 準備・資料 平泉の写真・藤原氏の家系図・ワークシート(絵日記)・電子黒板

(3) 展開

学習活動・内容	支援の手立て(◎評価)
<p>1 本時の学習内容を確認し、学習への見通しをもつ。</p> <p>芭蕉が何に感動したかを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、芭蕉という人物について見えてきた部分を確認することで、本時の学習への意欲を高められるようにする。 〈電子黒板の活用〉 平泉という土地について世界遺産に登録されたことを紹介したり、写真を提示したりして、本文への興味を引き出す。 漢語的な歯切れのよいリズムを意識させる。 〈読みの視点の明確化〉 芭蕉の感動を考えやすくするために「芭蕉が見たもの」、「芭蕉が感じたこと」を読み取っていくよう助言する。 読み進めるための視点を明確にするために2色の付箋に記入させる。 芭蕉が見たもの・・青色 芭蕉が感じたこと・・黄色
<p>2 平泉の前半部分を音読する。</p> <p>3 芭蕉が何に感動したかを個人で考える。</p> <p>・高館で見た景色から、一度は栄華を極めたものでもいつかは滅んでしまうはかなさ。 (変わってしまうもの)</p> <p>予想される生徒の反応</p> <p>ア 地名と人名の区別が付かず、大意がつかめない。</p> <p>イ 川や田野という語句にとらわれ、「自然」に感動していると答えている。</p> <p>ウ 感動しているものが分からず、想像や思いつきだけで推測している。</p> <p>エ 兵どもという語句から戦いが悲しくて涙を流したと、安易に答えている。</p>	<p>生徒の反応への手立て</p> <p>ア 家系図や写真を提示し、地名と人名を区別させる。</p> <p>イ 「はかない」という言葉に着目させ、芭蕉が涙を流した理由を考えるよう助言する。</p> <p>ウ 文章のどこに書いてあるか尋ね、叙述に即した読みができるよう支援する。</p> <p>エ 冒頭部分の藤原氏三代の栄華もはかないものであったという部分に着目させ、戦いの生死だけではないことに気付かせる。</p>
<p>4 自分の考えをグループで交流し、考えを深める。</p> <p>・根拠となる言葉や文章を挙げながら、自分の考えを話す。</p> <p>5 グループでの考えを発表する。</p> <p>6 本時のまとめをワークシートに記入する。さらに絵の部分を描く。</p> <p>・一度は栄華を極めたものでもいつかは滅んでしまうはかなさ。(変わってしまうもの)</p> <p>・変わってしまう建物や人の栄華のはかなさ。</p> <p>・人や人が作ったものの小ささ。</p>	<p>◎文章に表れている情景や場面を的確に捉え、文章全体の理解を深めている。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで考えを交流させ、自分では気付かなかった考えや表現に気付かせる。 グループでの話し合いをスムーズにするために、記入した付箋を類型化して貼ることができるシートを使用する。 本時のまとめとして、ワークシートに自分の言葉で記入させる。 変わってしまうものだけで、変わらないものはないのかと投げかけ、次時の学習へつなげる。